

光学医療診療部

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(1 人)
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	3 人	
合計	5 人	

2 教員の異動状況

今野 弘之（部長・教授）（平成 18 年 1 月 15 日～現職）

大澤 恵（副部長・講師）（平成 24 年 1 月 1 日～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	9 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	22.26	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	5 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	4.20	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Takayanagi Y, Osawa S*, Ikuma M, Takagaki K, Zhang J, Hamaya Y, Yamada T, Sugimoto M, Furuta T, Miyajima H, Sugimoto K. Norepinephrine suppresses IFN- γ and TNF- α production by murine intestinal intraepithelial lymphocytes via the $\beta(1)$ adrenoceptor. *J Neuroimmunol.* Apr;245(1-2):66-74, 2012 (IF:2.84)
2. Zhang J, Osawa S*, Takayanagi Y, Ikuma M, Yamada T, Sugimoto M, Furuta T, Miyajima H, Sugimoto K. Statins directly suppress cytokine production in murine intraepithelial lymphocytes. *Cytokine.* 61(2):540-5, 2013 (IF:3.02)
3. Hamaya Y, Kuriyama S, Takai T, Yoshida K, Yamada T, Sugimoto M, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Kanaoka S. A distinct expression pattern of the long 3'-untranslated region dicer mRNA and its implications for posttranscriptional regulation in colorectal cancer. *Clin Transl Gastroenterol.* 3:e17, 2012 (IF:0.00)
4. Uotani T, Sugimoto M, Nishino M, Kodaira C, Yamada M, Sahara S, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Tanaka T, Umemura K, Watanabe H, Miyajima H, Furuta T. Ability of rabeprazole to prevent gastric mucosal damage from clopidogrel and low doses of aspirin depends on CYP2C19 genotype. *Clin Gastroenterol Hepatol.* 10(8): 879-885, 2012 (IF:5.64)
5. Sugimura H, Osawa S. Internal frontier: The pathophysiology of the small intestine. *World J Gastroenterol.* 19(2):161-4, 2013 (IF:2.47)
6. Sakaguchi T, Suzuki S, Inaba K, Takehara Y, Nasu H, Konno H. Peripancreatic arterial anatomy analyzed by 3-dimensional multidetector-row computed tomography. *Hepatogastroenterology.* 59(118):1986-9, 2012 (IF:0.66)
7. Iino I, Sakaguchi T, Kikuchi H, Miyazaki S, Fujita T, Hiramatsu Y, Ohta M, Kamiya K, Ushio T, Takehara Y, Konno H. Usefulness of three-dimensional angiographic analysis of perigastric vessels before laparoscopic gastrectomy. *Gastric Cancer.* 2012 Sep 11. Epub (IF: 2.42)
8. 坂口孝宣、鈴木昌八、柴崎泰、福本和彦、稲葉圭介、今野弘之：胆道再建術後胆汁漏の検討：ICG胆汁漏テストの有用性 *胆道* 26(4): 577-582, 2012.

インパクトファクターの小計 [17.05]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ikeya K, Osawa S*, Kuriyama S, Hamaya Y, Yamada T, Sugimoto M, Furuta T, Sugimoto K. Decompression side tube-equipped double-balloon enteroscopy extends intubation depth and reduces patient discomfort. *Endoscopy.* 44; Suppl 2:E256-7. 2012 (IF:5.21)

インパクトファクターの小計 [5.21]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 大澤 恵:血液症候群(第2版)好酸球性胃腸炎. 日本臨床 別冊新領域別症候群シリーズ No.22, P155-158, 2013 (IF:0.00)
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)
1. Sugimoto M, Jang JS, Yoshizawa Y, Osawa S, Sugimoto K, Sato Y, Furuta T. Proton Pump Inhibitor Therapy before and after Endoscopic Submucosal Dissection: A Review. Diagn Ther Endosc. 2012:791873, 2012 (IF:0.00)
 2. 菊池寛利、太田学、今野弘之:進行・再発 GIST に対する集学的治療の現状. 日消誌 109(12): 2031-2041,2012. (IF:0.00)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)
1. Terai T, Sugimoto M, Uozaki H, Kitagawa T, Kinoshita M, Baba S, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K. Lymphomatoidgastropathy mimicking extranodal NK/T cell lymphoma, nasal type: A case report. World J Gastroenterol. 18(17):2140-4, 2012. (IF:2.47)
- インパクトファクターの小計 [2.47]
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの
1. Kikuchi H, Miyazaki S, Setoguchi T, Hiramatsu Y, Ohta M, Kamiya K, Sakaguchi T, Konno H: Rapid relapse after resection of a sunitinib-resistant gastrointestinal stromal tumor harboring a secondary mutation in exon 13 of the c-KIT gene. Anticancer Res. 32(9):4105-9, 2012. (IF:1.73)
 2. Fujita T, Kamiya K, Takahashi Y, Miyazaki S, Iino I, Kikuchi H, Hiramatsu Y, Ohta M, Baba S, Konno H. Mesenteric paraganglioma: Report of a case. World Journal of Gastrointestinal Surgery. 5(3):62-67. 2013. (IF:0.00)
 3. 飯野一郎太、坂口孝宣、太田学、神谷欣志、馬場聡、今野弘之: 膾炙潤をきたした胃原発内分泌細胞癌の1例 日外科系連会誌 37(4): 784-789, 2012. (IF:0.00)
 4. 倉地清隆、中村利夫、中村光一、澤柳智樹、原田岳、原竜平、間浩之、今野弘之: 治癒切除可能であった結腸癌術後孤立性直腸膀胱窩転移再発の1例 大腸肛門病学会: 65: 70-74: 2012. (IF:0.00)

インパクトファクターの小計 [4.20]

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	19 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

今野 弘之： 日本消化器外科学会 理事(専門医制度担当)、外科関連学会協議会代表委員、外科関連専門医制度委員会代表委員、NCD専門医制度委員、学会機関誌編集委員、
日本胃癌学会 評議員、将来構想副委員長、非選挙評議員選考員
日本がん転移学会 監事、評議員

日本病態プロテアーゼ学会 監事
 がん集学的治療研究財団 理事
 日本がん治療認定医機構 理事
 日本専門医制評価・認定機構 協議委員
 日本外科学会 評議員、英文誌編集委員、静岡県安全管理責任者
 日本癌治療学会 評議員、総務委員会委員
 日本癌学会 評議員
 日本消化器病学会 財団評議員、学会評議員、学会機関誌編集委員、東海支部幹事
 日本消化器内視鏡学会 評議員
 日本外科系連合学会 評議員、Fellow、Fellow会員資格審査委員会委員、国際・渉外委員会委員
 日本臨床外科学会 評議員
 日本食道学会 評議員
 日本消化器癌発生学会 評議員、会則委員長
 日本癌病態治療研究会 世話人
 大澤 恵： 日本消化器病学会、学会評議員、東海支部評議員
 日本消化器内視鏡学会東海支部評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2件	1件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

今野 弘之 Surgery Today (日本外科学会) Editorial Board IF 有

今野 弘之 Clinical Journal of Gastroenterology (日本消化器病学会) Editorial Board IF 無

(2) 外国の学術雑誌の編集

大澤 恵 World Journal of Gastroenterology (中国) Editorial Board PubMed 登録有 IF 有

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

今野 弘之 20回 Surgery Today (日本)

今野 弘之 20回 Clinical Journal of Gastroenterology (日本)

今野 弘之 5回 Digestive Endoscopy (日本)

今野 弘之 5回 Cancer Science (日本)

大澤 恵 8回 World Journal of Gastroenterology (中国)

大澤 恵 1回 Journal of Gastroenterology (日本)

大澤 恵 1回 Journal of Neuroimmunol (USA)

9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
--	----------

(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	2 件

- 『内視鏡用フードおよび同内視鏡用フードを備えた内視鏡の開発』ショーダテクトロン株式会社との共同開発
- 『着脱可能内視鏡処置用糸付クリップの開発』平電機株式会社との共同開発

11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

- ダブルバルーン内視鏡を用いた小腸内視鏡診断における深部挿入の工夫
小腸疾患の内視鏡診断および治療は、バルーン内視鏡の登場により大きく進歩したが、全小腸観察率向上のためにはさらなる手技の工夫が望まれる。当院ではダブルバルーン内視鏡のオーバーチューブに脱気用の減圧チューブを装着した新たな方法（サイドチューブ法）や、イレウス管挿入を併用してその先端のバルーンを固定点として利用する方法（トリプルバルーン法）を考案し報告した。
- 消化管癌に対する光線力学療法のさらなる可能性
これまで食道癌および胃癌の表在癌に対して、フォトフリンを用いた光線力学療法(PDT)を施行し、良好な成績を得てきた。本治療の有用性をさらに高めるための光感受性物質の改良や、レーザー照射法の改善などを検討している。
- 早期食道癌に対する安全かつ確実な粘膜下層剥離術(ESD)の手技の確立
早期食道癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)は、狭い空間の中で薄い食道壁を処置する難易度の高い手技である。大腸用に開発されたはSBナイフ Jr を用い、糸付クリップなどを併用した独自の手技で施行している。現在、さらなる手技の改善のために出血時にも視野を失わない構造の先端キャップの開発と、着脱可能な糸付クリップの開発を行っている。
- 小腸上皮間リンパ球を介した消化管粘膜免疫制御の解明
マウスの小腸上皮間リンパ球を単離し、一時培養し薬剤添加によるサイトカイン産生や、増殖、 آپトosis誘導などを検討してきた。これまでの我々の知見から、グルタミンは促進に、ヒスタミン、カテコールアミン、スタチンは抑制に作用することが明らかとなった。